

いのち
生命の水 うるおす未来

アジアネット

JAFS

NEWS & REPORTS 2026年冬

164



特集

未知のアジア 肌で触れ交流

去る10月、バンコクで開催された第31回アジア国際ネットワークセミナーで行われた次期国際役員選挙にて、AFS（アジア友の会）会長に選出されたバダム・ラジ・シュレスタです。皆様のご支援に心から感謝申し上げます。この機会に私たちの共通の使命の新たな展開を図り、ネットワークを維持・強化するために共に歩んでいきたいと思えます。

私は1989年のバンコクでのセミナーに参加して以来、数多く参加し、多くの仲間たち

と積極的に交流すること、アジアの貧困を少しでも減らすこととする彼らの献身的な働きを学び共に歩んできました。

私が、今後、会長としての役割を担う

起業や投資で 革新的な活動を



パダム・ラジ
・シュレスタ
AFS（アジア友の会）会長

NGOをはじめとする市民団体や民間企業、行政との関係に至るまで、革新的なアプローチを試みる必要があると思います。今後議論を重ね、最も実現可能な方策を選択したいと思います。

取り組みの中には、ミッションに沿った小規模事業を支援するための新しい助成金の獲得が含まれます。たとえば、小規模な畜産プロジェクト、地元の工芸品、農産物、コンサルティングサービスなどです。経済

にあたり、今回のセミナーでビジネス開発や起業家精神を促進するために新しいアイデアが必要だと感じています。これからの任期2年間で私は積極的に行動し、投資による収益を生み出し、革新的な活動ができるようAFSメンバーの協力を得たいと思っています。

今回のセミナーでは各国の参加者と共に、開発分野での厳しい資金状況のなかでネットワークを維持する方法を話し合いました。

Sの活動を支援するために特定のプロジェクトなどに資金を提供することも可能です。また各国の特産品の売買による収益や、旅行の手配業務の手数料などの収入を、アジア国際ネットワークセミナーの資金源にする方策も考えられます。これらの活動はAFS内で十分に調整し、利益は将来の取り組みを支援することに充てられます。

AFSネットワーク理事会のメン

バーは定期的にオンライン会議を行います。効果的な実施を行うため、各AFS支部から優秀な担当者を選出し、各プロジェクトを管理監督することによってAFSを強化し、財政的持続の向上を図ってまいりますので、今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

※アジア国際ネットワークセミナー

(A I N S)とは、「貧困なき一
なるアジア共同体を目指して」アジ
アに理解と協力と連帯の輪を広げよ
う」をテーマに、1991年から
毎年開催している(2020・22年
はコロナ禍で中止)。A F Sの主要
な各国支部が集い、アジアの現状把
握から、より良い未来の創造を目指
して共に考え話し合う会議である。
2025年10月にタイのバンコクで
第31回A I N Sが開催された。

●プロフィール●

パダム・ラジ・シユレスタ
1961年ネパール生まれ。セン
ト・ザビエル高校卒。学校教師、
コピーライター、会社共同経営者
などを経て、現在、Cプラス(株)
ゼネラル・マネージャー。AFS
ネパールの執行役員。趣味は、S
NS、ハイキング、水泳、音楽
写真。2025年10月からAFS
会長。

JAFS 會員綱領

私たちは、世界の平和と人間の基本的人権を守るために人々との「友情と信頼」に基づく「理解と協力と連帯」の輪をアジアと世界に広げます。

かかる目的をもって私たち JAFS 会員は以下のことに努めます。

一、より人間らしい地球社会の創造をめざします。

一、アジアと世界の人々の
幸せに奉仕します。

一、地球の自然環境を大切に守ります。

一、生活の無駄を省き、地球資源を大切にします。

一、これらの奉仕活動を通して、自分と他人の生命いのちの価値を高めます。

以上

● 主な目次 ●

「巻頭言」起業や投資で革新的な活動を 特集：未知のアジア 肌で触れ交流	02
2つの海外活動から	04～08
「海外活動ア・ラ・カルト」	09～11
ゴミ山の隣に住むネパールのロヒンギャ難民 ／青少年がネパールの防災力向上／ネットワ ークで課題を学びあい	
「JAFSプラザ」＝国内の活動	12・13
クラシック演奏による社会貢献／優しい音色 に酔う／歌劇の街に残る古い宿場町を歩く／ 障がいと共に「ありのまま生きる力」	
新イベント「アジアまるごとフェスタ」	14・15
イベントカレンダー2026年冬	16・17
新入会員紹介・領収報告	18・19
「井戸ができた村」	20～22
「環境コラム」	23
「編集後記」	23

アジアネット

JAFS NEWS & REPORTS

2026年冬

164



アジア協会アジア友の会とは

アジアに井戸を贈ることから地域の自立を目指す国際協力NGOです。1972年に大阪の若者により結成された国際奉仕グループ「エポス・クラブ」が発展し、1979年に大阪で設立。誰もが生まれてきて良かったと思える社会を目指し、2025年3月現在、井戸建設（累計2366基）や植林（累計261万本）、子ども教育支援を中心に活動しています。全国都道府県認可の社団法人取得第1号です。2012年から、内閣府の認定を受けた公益社団法人になりました。

海外との交流・協力活動は、アジア18カ国（インド、インドネシア、バングラデシュ、タイ、マレーシア、フィリピン、スリランカ、ネパール、韓国、カンボジア、シンガポール、ミャンマー、ラオス、中国、ベトナム、モンゴル、パキスタン、アフガニスタン）、さらに西アフリカのブルキナファソにも広がり、65の現地提携団体を通じ、友情のネットワークが形成されています。日本国内でも、各地でチャリティプログラム、自然環境プログラムや、人材育成、留学生交流など行っています。



since 1979

JAFS

公益社団法人 アジア協会アジア友の会
Japan Asian Association & Asian Friendship Society

本会へのご寄付は、寄付金控除の対象です

JAFSは内閣府より公益社団法人としての認定を受けています。JAFSへの寄付金や会費（社員会費は除く）は、申告によって、所得税、法人税、相続税について税制上の優遇措置（寄付金控除）を受けることができます。

確定申告の際、税額控除、所得控除のいずれか有利な方を選択できます。本会発行の領収書を添付して申告してください。法人税は損金の額に算入することができます。相続税は最寄りの税務署などにお問い合わせください。

未知のアジア 肌で触れ交流

特集 2つの海外活動から

コロナ禍が収まってアジアを訪ねるスタディツアーやワークショップが再開され、学生や若い社会人の参加が増えてきました。現地に足を運び、自分の目で見て、人と直接触れ合えて得るものとはとても大きいと感想をいただいています。インドとフィリピンでの交流活動に参加した人たちの声をお届けします。



日本の折紙を教わり、作った名札を胸に付けたパダトラ小学校の子どもたち＝2025年8月18日、マハラシュトラ州ガッチロリ

個人で行けぬ世界を訪ねる インド

2025年8月14〜23日、「見たことのない世界に出会う旅ーインドの社会課題と向き合う10日間」というスタディツアーに大学生4人、社会人2人の計6人が参加しました。マハラシュトラ州ナグプールで、JAFS里親の会が提携団体AFSナグプールを通して支援するスラムの教育支援施設チャイルド・アカデミーを視察しました。同州ガッチロリでは、提携団体RUDYAとの活動現場、パダトラ小学校やムスカ村のサティ診療所、寄贈井戸などを訪れました。カルナータカ州ビジャプールでは、提携団体BSVIAが運営しJAFSが支援するコスモニケタン学園や、生徒の家を訪ねました。個人で行くにはハードルが高いと思われるインドですが、現地団体が日本からの訪問を歓迎してくれました。参加した大学生2人のレポートです。

スラムの人の就業助けたい 学ぶ生徒たちの意欲に驚く

関西外国語大学2年生 西村彩花

ツアーを通して、様々な発展途上国での問題点を見つめる中で、自分に何ができるのか深く考えさせられるととてもいい機会となりました。インドの幅広い社会課題や現地NGOの取り組みなどを知り、社会課題解決の難しさや、それに対する考え方など多くのことを学びました。反面、日本がインドから学ぶものも、特に教育の面で多くあると感じました。

ツアーを通して、様々な発展途上国での問題点を見つめる中で、自分に何ができるのか深く考えさせられるととてもいい機会となりました。インドの幅広い社会課題や現地NGOの取り組みなどを知り、社会課題解決の難しさや、それに対する考え方など多くのことを学びました。反面、日本がインドから学ぶものも、特に教育の面で多くあると感じました。

中で住んでいることに驚きました。

しかし、アカデミーで生徒たちははいきいきと折り紙に熱中し、ダンスを披露し、とてもフレンドリーに接してくれました。私の中で、スラムに住む子どもたちのイメージがガラッと変わりました。この子どもたちのためにも、スラムの方々への職業支援などできることをやってみたいと思うようになりました。

次にJAFSの支援で作られた井戸に行き、村人が以前は危険な森を2〜3km歩いて水くみしていた話を聞きました。井戸一つがどれだけ生活を安全に快適にするのかと感心しました。

今まで私は、本当の意味での国際支援とは何かと考えていたのですが、一つの支援が村の発展や村人の安全につながっている状況を見て、このような支援の重要性を改めて感じました。

ガッチロリで訪問したパダトラ小学校では、1年生から寮生活をしていることに驚きました。最初、生徒は見慣れない日本人の私たちにあまり心を開いてくれなかったのですが、最後に先生が音楽を流してくださり、それに合わせて踊っているうちにだんだん緊張が解けていきました。私たちの訪問が、子どもたちが海外に興味を持つきっかけになれば良いなと思いました。

つかけになれば良いなと思いました。図書室を充実させたり、壊れた屋根を修繕するなど、この学校の改善できそうなのところも見つかりました。

ムスカ村ではガオコール（月経中の女性の隔離小屋）に実際に入らせていただいて、どういうものなのかこの目で知ることができました。ネットなどでは、現在の慣習が残っている地域は少ないと書いてありましたが、実際はまだ日常的に使われていました。ジェンダー平等の知識がまだ根付いていないと感じました。田舎と都会の格差を感じ、少数民族の方々の意見を尊重しつつ命を守るための環境を開発することの難しさを実感しました。

ビジャプールでは、コスモニケタン学園の生徒と交流しました。ここで、インドの教育についての私の考えが一変しました。他の二つの学校では、生徒が心を開いてくれるまでに時間がかかったのですが、ここでは到着してすぐに笑顔で歓迎してくれました。とてもフレンドリーだと感じました。

先生が全員英語を話せることに驚きました。それに従って生徒の語学力も高く、この学校では小学1年生から英語を学び、州の公用語カンナダ語に加え、ヒンドゥー語と英語も小さいうちから勉強するそうです。

さらに、生徒の積極的な学ぶ姿勢にも感銘を受けました。今まで、インドの教育は子ども全員に行き届いていな

いとか、中退率の高さとか、社会的な課題ばかり耳にしていました、実際にしてみると、日本も語学学習や学習意欲の面でインドに習う箇所がたくさん見つかりました。

このツアーが、現地の生徒には、日本に興味を持つきっかけとなったのではないかと思います。そして、私たちは日本人には、インドの教育環境の良さ

ハイテク支援ちよい待って 性差別と偏見なくす教育を

龍谷大学3年生 川口愛心

私がインドに渡航し、学んだことは「支援のあり方」である。交通量の多さによる環境汚染や貧富の差や女性差別など、多くの問題がインドには存在するが、支援する時に気をつけなければならぬことがあると強く感じた。

ビジャプールのコスモニケタン学園では、井戸水を使ったり、ダル豆を自分たちで育てて売り、そのお金を学校の運営費に使っていたり、かなり貧しそう。寮の寝室はクーラーや扇風機はなく、非常に暑かった。「日本の支援で、電気を通してクーラーをつけてあげればいい」と安直に思った。

しかし、コスモニケタン学園やパダトラ小学校の生徒たちは、まっすぐな

や人々の温かさに気づくことができ、貴重でとても良い経験になりました。10日間だったとは思えないほどたくさんさんの社会課題やインドの良い点などに会えました。そして、これから発展途上国に対して行動していきたいことや日本に広めたいことなど、たくさんの方のやりたいことを見つけることができました。

笑顔で私たちを迎え入れ、楽しそうに交流やダンス発表をしてくれた。その笑顔を見た瞬間、「本当にクーラーをつけることが適切な支援だろうか」と疑問に感じた。

ビジャプールで訪問した生徒の家で「今の生活に満足していますか？」と尋ねたら、「満足している」と答えて返ってきた。日本から来た私には意外で驚きだった。自然も多い地域で都市部のようにハイテクな環境を目指すことが、その地域の人にとって適切な支援ではないということがわかった。

支援をする際には、その土地の自然や文化、生活習慣、伝統をどこまで残すべきなのか、現地に足を踏み入れ、

現地の人の意見を聞き、考えて行わなければならないと感じた。単に日本から見たインドという視点から考えるのではなく、その地域の人の立場で考えることが本当に意味のある支援になると気付かされた。現地に行かないとわからないことも多く、貴重な体験ができた。物事を相対化して考えられるようになった。

また、女性差別の現状を知った。今は廃止しているところも多々あるが、インドでは月経中の女性は隔離小屋（ガオコール）で隔離されることがある。その小屋を実際に見た。狭い小屋に5人が泊まったり、雨風に耐えられないような小屋だったりと、かなり劣悪な環境であった。背景には伝統や宗教的もあるが、教育が行き届いていないことも原因ではないかと考えた。月経がどういうものかを理解できていないのではないだろうか。

貧困地域であると、家庭の事情で子ども頃から働かなければならないこともあり、学校に行けない子が多く存在する。今回ツアーで訪問した二つの学校でも、「仕事の手伝い」が理由で欠席していた生徒が少なくなかった。教師やインフラが不足していることもあり、教育がまだまだ行き届いていないことがわかった。

しかし現地提携団体の方々や、教育に取り組む先生方とお話をする中で、少しずつではあるが変化していること

がわかった。例えば月経に関する正しい知識を子どもたちに伝えるワークショップを開催したり、女性が自らの体について話すことがタブーではなくなるような対話の場を設ける取り組みが始まっているという。

女子生徒のための衛生用品の配布や、月経期間中も安全に過ごせるようなスペースの整備など、具体的な支援も少しずつ広がっている。こうした活動は、地域の理解と協力を得ながら進める必要がある、時間はかかるものの持続的な変化につながると感じた。

月経に対する偏見や無理解は、知識の欠如だけでなく、貧困やジェンダー不平等といった社会構造の問題とも密接に関わっている。だから、教育が重要であり、学校はもちろん、地域社会全体で学び合うことが必要である。

今回の訪問を通して、現地の厳しい現実を目の当たりにすると同時に、人々の中にある「よりよい社会をつくりたい」という思いを感じることができた。私自身も、この体験をただの見学に終わらせるのではなく、今後どのように関わっていけるかを考え、行動につなげていきたいと強く感じている。

また、自分の当たり前は当たり前ではなく、環境や地域が変われば当たり前は変わるということを念頭に置き、「相手の立場に立って、本当に必要なものを提供できる」、そんな人になっていきたいと思えるツアーになった。

穴を掘る人、苗木を運ぶ人、植える人、協力して2300本のマンングローブを植えた。2025年9月14日 ソルソゴン州バグリラン村



幸せ願って海辺に植樹 フィリピン

労働組合イオンリテールワーカーズユニオンとJAFSが2025年9月11日、16日、フィリピン、ソルソゴン州マツグダグダラン村でワーキングキャンプをしました。現地提携団体AFSソルソゴンが取りまとめ、日本から15人、地元住民も200人以上が参加、マンングローブを植え、子どもたちと交流し、歴史や文化、生活、環境保全について学びました。

心に染みた現地のサポート 少数者にも理解のまなざし

イオンリテールワーカーズユニオン 有賀英明、西村俊亮

まずは何よりも、キャンプ参加者から寄せられた生のお届けしました。

「久々の海外渡航、初めてのフィリピンで、非常に緊張しておりましたが、事前の情報共有をはじめ、現地での多くのサポートをいただけたことで、一つ一つのカリキュラムに集中してのぞむことができました」

「多くの体験や気づきがあった中でも印象に残っているのが、マンングローブ植樹に先駆けて行っていたいた現地住民の皆さまとの交流機会です。元気がいっぱいの子どものたちとの交流機会は、日本では見かけることが少なくなつた風景でした。自分たちのためにたくさん練習してくださったであろう歓迎のダンスも感動しました。日本というところの『おもてなし』を異国の地で自分がされるという経験を言

葉にするのが難しく、今でも動画を見ると昨日の事のように皆の素敵な笑顔を思い出せ、自分自身も幸せな気持ちになります」

「LGBTQ（性的少数者）に対する周囲の理解は日本よりもはるかに進んでいると感じました。日本ではまだまだ周囲の理解が進んでいないと感じています。マイノリティではなく当たり前の光景がそこには広がっていました。多様な人々が当たり前になり前の生活をするという幸せについて改めて考える機会となりました」

「私たちのユニオンが掲げる『私たちの幸せ実現』に向け、今回の経験や感じたことを忘れることなく、活動を進めていきたいと思っています」

「私たちが植えさせていただいたマンングローブが大きく成長し、豊かな漁場になること、津波被害の抑制になる

ことを祈念しております」

「フィリピンに初めて行きました。

治安や衛生面に不安がありました。しかし、実際に行ってみると、そのイメージが一気に変わりました。きれいな海や豊かな自然、そして明るくフレンドリーな方が多く、言語が通じなくても非常に親切に接してくれました」

「今回、マングローブ植林活動やマトノッグの村民の方々との交流、フィリピンの歴史と文化について学びました。特に、印象に残っているのは、村民の方々が初めて会う私たちに對し、とっても素敵な歓迎をしてくれたことです。村民の子供たちと遊んだり、ダンスや料理をふるまっていたいたり、翌日行ったマングローブ植林活動も村民の方々と楽しく行うことができました」

「言語が分からなくても気持ちが通じ合い、コミュニケーションが生まれたことが非常に嬉しく、幸福感を感じました。今回の体験を機にまたフィリピンに行ってみたい、もっといろんな体験をして自分たちにとって人間力が高められるような活動をしていきたい、と思いました」

× × ×

私たちイオンリテールワーカーズユニオン（ARWU）は「私たちの幸せ実現」を理念として掲げ、「働く（仕事を楽しくする）」「暮らす（社会を

善くする）」「生きる（人間性を高める）」の3つの領域で仲間のつながりを構築する活動を推進しています。

「生きる」の領域において、アジア協会アジア友の会様をお願いし、カンボジアに井戸を寄贈する活動、インドネシアでの植樹活動などを通じ、海外の文化を知る機会や現地の住民の方々との交流など、日本国内ではできない異体験を行ってまいりました。この体験を通じて参加者の視野・視座の拡大を図り、私たち一人ひとりの役割を再認識し、地域社会への貢献と課題解決を目指してまいりました。

しかし、新型コロナウイルス感染症が世界的に蔓延し、この活動をストップせざるを得なくなりました。コロナウイルスの蔓延も終息し、組合活動も徐々に再始動する中で、改めて海外でのワーキングキャンプ実施に向け、アジア協会アジア友の会様にご相談させていただき運びとなりました。その中で、カンボジアにおけるインフラの整備が進んでいること、よりさまざまな活動が広げられる可能性があるということ、フィリピンでワーキングキャンプを、マングローブの植樹活動を中心として計画しました。

マングローブの植樹活動の他、フィリピンの文化に触れる視察や現地住民との交流機会などを設けていただいたことで、参加者それぞれが人間力を高める機会となりました。

住民の意識高まった／若者ら日本に学ぶ／地域に長期的な利益 現地の反響

ARWUワークキャンプグループは、私たちの村の特にマングローブの再生・保全プロジェクトに多大な貢献をしてくれました。私たちは多くのことを再認識し、学ぶことができました。洪水や嵐からの保護、海洋生物の生息地としてのマングローブの重要性について、住民の意識が高まりました。次にワークキャンプの準備期間に、若者や地元ボランティアが環境プログラムや地域プロジェクトに参加を呼びかけ、マングローブの植林地が拡大と適切な維持管理に関する貴重な知識と経験を共有することができました。彼らは協力と環境保護の精神を真に体現して、国際ボランティアの有意義さを感じ、絆を強めました。

（ベル
パグリラン村ユースリーダー）

私たちは2014年からマングローブの植林を始めました。メンテナンスは大変です。今回、日本から多くの方が来られたことで、私たちや地域の人々が植林を継続する意欲をさらに高めてくれました。さまざまなプログラムの準備に協力した若者たちは、日本人の生き方、スタイル、そして興味を観察することに熱心です。私たちは彼らから多くのことを学ぶこと

ができます。

（ネナ

AFSソルゴン・メンバー）

マトノッグのコミュニティ全体を代表し、私たちの愛する町で行われたマングローブ植樹活動に、心から感謝申し上げます。献身的で環境意識の高い団体と共に活動できたことは本当に光栄でした。

この取り組みが、沿岸地域に即時的かつ長期的な利益をもたらすことは間違いありません。マングローブは、年々巨大化するピコール地方を襲う浸食、高潮、台風から海岸を守ります。マングローブの健全化は海洋生態系の健全化を意味し、漁師の生活を支え、地域社会の食料安全保障を促進します。さらにマングローブ保護・保全プログラムの重要性和利点に関する地域社会の意識を高めました。日本の友人たちと地域社会の間の友好関係を育み、地球に対する共通の責任を果たす上での国際協力の価値をさらに強めました。私たちは、継続的パートナーシップと、将来の共同プロジェクトの可能性に期待しています。マトノグの生態系の健全性と持続可能性への貢献に感謝申し上げます。（ジュナール・オロ・ガルシア
マトノッグ町町議会議員）

ゴミ山の隣に住むロヒンギャ難民 ミャンマーから逃げる際、夫は拘束 ネパール

私がネパールに住むロヒンギャ難民
の子どもたちと出会ったのは、昨年9
月のことである。JAFSが里子支援

を行っているカトマンズ郡チュニケル
村の学校を視察に訪れた際、ロヒンギ
ヤの子どもたちが現地の子どもたちに
交じって授業

を受けていた
のである。そ

の学校の校長
先生曰く、こ

こ一年ほどで
ロヒンギャ難

民の子どもた
ちがたくさん

学校に通うよ
うになったと

いう。校長先
生に、彼らが

暮らす集落を
案内してもら

った。
まず飛び込

んできたのは、彼らの集
落の横にある

ゴミ山であ

る。そのゴミ山は、ゴミで生計をたて

る職業カーストのネパール人が住んで

いる場所である。そのすぐ隣にロヒン

ギャ難民の集落はあるのだ。アジア最

貧国とも言われるネパールの中でも、

とくに貧しい地域にロヒンギャの人々

は肩を寄せ合いながら暮らしていた。

彼らの家は、トタンで覆われ、斜面

に建てられている。一階部分には、ニ

ワトリなどの家畜を飼い、その上に床

を作って日常生活を送っている（＝写

真）。集落の人に話を聞くことができ

た。彼らは、元々ミャンマー西部に住

る。そのゴミ山は、ゴミで生計をたて
る職業カーストのネパール人が住んで
いる場所である。そのすぐ隣にロヒン

ギャ難民の集落はあるのだ。アジア最
貧国とも言われるネパールの中でも、

とくに貧しい地域にロヒンギャの人々
は肩を寄せ合いながら暮らしていた。

彼らの家は、トタンで覆われ、斜面
に建てられている。一階部分には、ニ

ワトリなどの家畜を飼い、その上に床
を作って日常生活を送っている（＝写

真）。集落の人に話を聞くことができ
た。彼らは、元々ミャンマー西部に住

る。ネパールに着いたのは10年以上前
で、これまでネパール国内を転々とし

ていたそう。現在の場所にたどり着
いたのは1年ほど前で、この地域の学

校が子どもたちを受け入れたこともあ
り、1年ほどそこで暮らしているとの

ことだった。
集落に住むある女性は、ミャンマー

から逃げてくる際の出来事を神妙な面

持ちで語ってくれた。インドの国境付
近を通る際に、夫がインド軍の国境警

備隊に捕まり、収容されてしまったの
だ。夫が釈放されるには、インド政府

にお金を払う必要があったが、ほとん
ど現金を持っていない彼女は集落の人

々から借金をしてなんとかお金を用意
し、ようやく夫が近々釈放される予定

だそう。
ロヒンギャの人々は、集団的迫害か

ら逃れるために国外へと避難し、その
先で帰還の道筋も見えないまま、日々

の生活をなんとか乗り切って生き抜い
ているのである。そんな過酷な生活状

況の中でも、ここに住む子どもたち
は、私たちに笑顔を向けてくれた。ロ

地崩れしない村をつくらう

青少年から中高生に伝える防災意識

海拔1000m以上のエリアが国土の73%以上を占めるネパールでは台風以外の災害が頻繁に起きますが、山がちなため対策が難しい国の一つです。そこで地域住民の「防災力」を高めることで災害リスクを下げようと、

2023年からシンドウバルチョーク郡で防災事業をしています。24年3月～25年6月まで防災力強化2年次事業（日本NGO連携無償資金協力）として、地区の防災拠点となる防災備蓄庫兼緊急避難所を7区分設置。また斜面

崩壊エリア4カ所（計1900平方メートル）に対策工事と緑化、区役所と学校では地域放送の運用を始めました。各地域では、防災リーダー育成と共に居住地の危険エリアなどを示した防災マップを作りました。

今回の活動の一つ目のポイントは青少年の参画です。防災リーダーには学生もあり、学校での取り組みを進めています。この地域は現金収入が少なく仕事を求めて村外に出る人が多いため、青少年が自分の地域の状況を知ること、村に愛着を持つてほしいとの現地の高齢者の願いを盛り込みました。

二つ目のポイントは、斜面崩壊エリアの緑化による土留めです。この地域では斜面を耕して田畑にしたり、斜面を削って道を通しているため、地崩れが頻繁に起きており、この技術は大きな期待と注目を集めていました。経験値の高い専門家からの技術の伝授が重要と、海外のへき地で緑化を行ってきたボランティアの技術協力を得て、根の張り方が異なる種類を混植することや、種の蒔き方のコツを丁寧に教えてもらいました。斜面崩壊を緑化でしっかり止めることができた第9区の区長は「雨季になると、斜面が崩れていなか見回るのが日課だったが、今年は心配がなくなつて、気が休まる雨季を過ごせたよ」と言いました。

学校に地域放送システム設置した第10区の学校長は「生徒たちが積極的に

放送活動をしています。今は学内放送がメインですが、放送の質を上げて地域放送を定期的に行いたいと考えています」と、学校活動の変化が誇らしげでした。学校では、ボランティア活動のため8月に訪問した東京の自由学園の学生が、カトマンズの大学生と共に防災ワークショップを行いました。テーマは「万が一に備えて私たちにできること」。1年半前に同じように学校で「防災」オリエンテーションを行った際には沈黙だった現地の子どもたちが、積極的に発表をしていました。

ネパール生徒「地域防災マップができたので、家族や学校の友人と安全な場所へ逃げます」

日本学生「安全な場所ってどこ？」

ネパール生徒「……」

日本学生「皆で安全地を確認して逃げる場所を決めておくというのは」

ネパール生徒「そうですね」

子どもたちの防災意識が一つ上がりました。日本では当たり前のもともネパールでは新たな知識となります。取り組みを一つ一つ重ね、老若男女問わず当たり前の知識に変わっていく未来を期待します。今後は地域の防災活動を活発化するため防災訓練を加え、また防災備蓄庫兼緊急避難所を地域住民の馴染みの場所にするために平時に活用して緊急時の円滑利用につなげることに地域で取り組んでいきます。

（JAFS元スタッフ 熱田典子）



日本の自由学園の学生とカトマンズの大学生が、ネパールの中高生向けに防災ワークショップ=2025年8月、ネパール、シンドウバルチョーク郡インドラワティ村

貧困なき一つのアジアを目指す

組織固めとスラム支援事例の視察

第31回アジア国際ネットワークセミナー（AINS）は、12カ国（インド、パキスタン、スリランカ、ネパール、インドネシア、マレーシア、ベトナム、モンゴル、フィリピン、タイ、

日本）から38名の参加により、2025年10月10日～14日にタイのバンコクで開催されました。

今回はホストであるAFSタイなどの協力を得て開催され「貧困のない一つのアジア社会をめざす」という共通のビジョンを再確認しました。

今回のセミナーではAFSネットワークの定款

が全員一致で正式に確定し、組織のガバナンスも明確になりました。同時に選挙によりAFS役員会のメンバーが選出されました。

◇会長…パダム・シュレスタ（ネパール）＊巻頭言参照

◇副会長…エロイザ・クナナン（フィリピン）、カシナート・デオガダ（インド）

◇財務担当…ラビ・カンダゲ（スリランカ）

◇書記…レシナ・バジュラチャリヤ（ネパール）

◇執行役員…スラポン・

アジア各国からのAFSメンバーが共にビーチクリーン活動。この活動を各国に持ち帰り地域に広める＝2025年10月13日、タイ、チョンブリ県



ブクリー（タイ）、ジェネロサ・コンデス（フィリピン）、シディ・ターカー（インドネシア）、ビシャール・パランジャヤ（インド）

また5日目の早朝には10月10日の国際グリーンスカウトデーにちなんで、AINSで初めてのクリーン活動として、チョンブリ県の海岸にて全員参加でクリーン活動を行い、主に海洋汚染の大きな原因となっているビニール袋のゴミを多数回収しました（＝写真）。今後は各国支部において順次クリーン活動を行う計画です。

（JAFSスタッフ 柿島裕）

スラムの子の生活の質向上

バンコクにあるタイ最大のスラム街であるクロントーイ地域にあるドウアン・プラティープ幼稚園を訪問しました。

この幼稚園は、貧しい家庭の子どもたちが1日1バーツ（約5円）という少額の費用で教育を受けられるようにするため1968年に創立された「1日1バーツ学校」から始まった幼稚園で、現在もその使命を受け継いで続いていることに深く感動しました。

この幼稚園では、子どもたちが自分のペースで探求し、独立性を育み、ありのまま好奇心に従って学ぶモンテッソーリ教育法の理念が教育活動に生かされており、教室内を歩くと、落ち着

いた環境の中で子どもたちが深く探求する雰囲気を感じ取ることができました。

私たちは特に、幼稚園が、スラム街であるクロントーイ地域の家庭と緊密な関係を持つていることに感銘を受けました。多くの親は、幼稚園を早期教育の場としてだけでなく、先生やスタッフから子育てへの理解や精神的サポートを得る場としても頼りにしています。

先生は、親がモンテッソーリ教育法について学び、子どもの成長に積極的に関わる手助けをしていることを誇りにしていました。

子どもたちが自信に満ち、喜びにあふれ、積極的に活動しているのを見て、特に低所得家庭の子どもたちの生活の質向上に取り組む幼稚園の使命がさらに強く感じられました。先生方は、全国教育品質評価事務局から「良好」の評価を受けたことや、優れた小学校に進学する卒園生について満足感を共有していました。

訪問を終えた私たちは、この幼稚園がクロントーイ地域のすべての子どもに対して、尊重・平和・機会という価値を真に体现する、安全で育みのある希望に満ちた場として機能していることに深い感謝の念を抱きました。

（AFS役員会書記

レシナ・バジュラチャリヤ）



国内外のさまざまなイベントをHPに載せています。記事についてのお問い合わせは JAFS へ。裏表紙にアドレス、連絡先

クラシック演奏による社会貢献 集大成して後輩に引き継ぐ

10月24日に大阪のザ・フェニックスホールで、26日には神奈川のミューザ川崎シンフォニーホール市民交流室で、JAFSチャリティコンサート「瀬田敦子 演奏50周年記念ピアノリサイタル」阪神淡路大震災後の30年に想いを寄せて」を開催しました。「ラ・カンパネラ」や「津軽ジョングラ節」などを演奏し、両会場で計330名以上の心に響く演奏会となりました。

JAFSの皆さんのおかげで、本場に素晴らしい演奏会を行うことができました。心より感謝しています。

JAFSと出会えたことはとても貴重でした。アジアの貧しい暮らしの中で教育を十分に受けることができない子どもたちや、国内外の災害時の支援のためにお力添えできるチャリティコンサートが続けることができたと思っています。

今回のコンサートも、ポーランドに居ながら準備をしていまし

た。クラシック音楽への関心度が下がっている昨今、入場者数が少ないのではないかと気が気でありませんでしたが、蓋を開けると大阪も神奈川でもたくさんの方々が出来場くださっていて、喜びでいっぱいになりました。その分、演奏にも力が入りました。

共演したタイ人とベトナム人の若い演奏家もこの活動に理解を示してくれ、全員が素晴らしい演奏をしてくれたことも嬉しいことです。クラシック音楽の良さ、演奏を通じて社会に貢献することを、少なからず後輩の演奏家に伝えることができたコンサートでした。

大きなコンサートはこれで終わりと考えていますが、来年以降は日本で暮らす予定ですので、今後は私にできる範囲でJAFSの活動に役立てることをしていきたいと考えています。

またどこかで皆さんにお会いできることを楽しみにしています。

(JAFS会員 瀬田 敦子)

優しい音色に酔う



11月2日、J R高槻駅前のクロスパル高槻にて、高槻地区会主催のアジアンホームパーティー・チャリティコンサートとして、カフエカルテットさん4名の皆様による弦楽四重奏のコンサートが開催されました。会員・未会員あわせて、45名が優しい音色に酔いしました。

パッヘルベルのカノンや、見上げてごらん夜の空をなど、馴染み深い曲をアットホームな雰囲気の中演奏され、バイオリンとビオラの違いなども分かりやすく説明くださり、たいへん勉強になりました。最後には童謡を皆で合唱し、和やかな会となりました。たくさんの方にご参加ご協力いただきありがとうございます。収益はインドの日印友好コスモニケタン学園の活動支援に寄付させていただきます。

(JAFS高槻会長 伊藤 エリサ)

歌劇の街に残る古い宿場町を歩く

11月20日、JAFS歩く会の第35回道楽の会では「3つの街道が交わった寺内町を訪ねて」を実施しました。兵庫県宝塚市の逆瀬川駅から清荒神駅まで歩き、参加者は8名。澄んだ空気の中、色づく木々を眺めつつゆっくりと進みました。

最初に訪れた伊和志津神社では、手塚治虫（学生のころ宝塚在住）作品『ブラック・ジャック』の絵馬を見つけ、宝塚ゆかりの文化の広がりにも触れることができました。街の雰囲気



体感し、歌劇の街としての趣も感じる事ができました。

今回のメインは歴史ある小浜宿の散策です。当時の建物や石碑、お社などはわずかに現存するのみで、その多くは面影を感じる程度となつていますが、それでも区画の配置や町並みの形から、往時の宿場の姿を想像することができ、静かな時間が流れている大変きれいな町でした。

宝塚市は歌劇の街として知られていますが、このような宿場町の名残やお寺が今も残っていること、それにともない樹齢の古い木々が残っていることに、皆驚かされました。

散策の途中、地域で大切に祀られてきた珍しいお地藏さんであり、首から上の頭の病や頭痛などの厄払いができる「首地藏」を参拝し、全員で厄除けを祈願しました（＝写真）。

小浜宿を抜けて、不動明王を祀るところで知られる清荒神参道の最寄り駅「清荒神駅」での解散となりました。

互いの近況を語り合いながら、秋の一日を楽しく歩くことができました。全員無事に完歩し、歴史と自然を満喫した有意義なハイキングとなりました。

（JAFSスタッフ 榮康隆）

障がいと共に 「ありのまま生きる力」

10月18日、なにわ南地区主催で「第12回ノアノアフエスタ：心の講話シリーズ」を開催しました。テーマは「ありのままを生きる力」。大阪市平野区のノアノアカフェを会場とし、NPO法人「こずえのつぼみ」の神野哲さんと、「幸せの入り口屋」の西亀真さんのお二人にお話しいただきました。

当日はあいにく小学校の運動会と重

なり、参加予定者からキャンセルが相次ぎましたが、いつの間にか会場が満員になり安堵しました。

神野さんは、自身が不登校経験者であり、ご子息が自閉症という経験から、子どもの不登校や発達障害に苦しむお母さんに向けて、解決方法などを実例をまじえてお話しされました。

美味しい昼食の後、就労支援事業所アークシヨップノアノアに通う障がい者の方から成るグループ「ハビネス・ノアノア」のメンバーによる、楽しい歌と踊りがありました。

西亀さんは、治療不可能と言われる目の難病、網膜色素変性症を発症され、視力や視界が失われてゆく中をバイタリティで乗り越えられた心の持ち方を説かれました。心にしみるお話の中で西亀さんの苦労連続の話が語られ、参加者は涙ながらに聞かれています。

（JAFS会員

中西豊次）





アジアの魅力まるごと感じるフェスタ

若い世代に活動伝えアジアと交流

11月22日に「アジアまるごとフェスタ」（旧アジアン・チャリティ・フェスティバル）が大阪国際交流センター（大阪市）で、留学生24名を含む267名の参加のもと開催されました。

今回は、これまでのアジアン・チャリティ・フェスティバルから名称を変更し、新しいコンセプトのもと実施しました。

コンセプトとしては、若い世代にもっとアジアの魅力を感じてもらったりJAFSの活動を知ってもらったりするための催しを、JAFSでインターン活動をしている大学生が中心となって企画するというものでした。

大学生が考えたものとしては、万博でも人気を博したヘナタトゥーや民族衣装体験、アジアに関するクイズを解きながら会場を巡るスタンプラリー、アジアの遊び体験、アクセサリー作りのワークショップなど、子どもから大人まで楽しめる楽しい催しが目白押しでした。

子どもたちがスタンプラリーの用紙を持ってうれしそうに会場を歩き回っていたり、ヘナタトゥーを描いた自分の腕を満足げに写真におさめている若い世代の人たちを見ていると、インターン生の企画は大成功だったように思います。

また、舞台でも様々な演目が行われました。2019年のラグビーワールド

カップでの演奏経験もある津軽三味線演奏者のジャックさんとチェロ演奏者のマークさんによるオープニング演奏を皮切りに、ベトナム獅子舞（＝写真）やネパールダンスなど、アジアの魅力ある文化を発信する演目がありました。

中でも、今回の新しい取り組みとして、留学生が日本の歌を歌ったり、日本人が外国の歌を歌ったりする「カラオケBBO」が行われました。今回入賞した方々は、タイ出身のヴァンダさん、インド出身のワンキさん、中国にルーツのあるBBOさんの3名でした。入賞した3名は、2月に梅田のスカイビルで行われるワン・ワールド・フェスティバルの本戦にも出場できるという特典つきでした。会場全体が盛り上がり、歌を通して日本とアジアの交流ができた素晴らしい時間となりました。

全体を通して、大学生などの若い世代がイベント運営に参画してくれたことや、日本も含めたアジアの魅力やJAFSの活動を多くの方々に発信できたことが良かったかと思っています。

今後もより多くの方々に「アジアまるごとフェスタ」に参加してもらい、JAFSの理念に基づきながら国際交流に貢献できるイベントに育てていきたいと思っています。

（JAFSスタッフ 藤澤幸二郎）

出店交渉うまくできず悔しさ

近畿大学1年生 倉鋪智文

私は夏にインターン生として入ってから、イベントの企画・運営に携わってきました。約4カ月活動していく中で、イベントの内容から名称の決定、出店していただくお店のアポ取りなど様々な仕事を体験してきました。

自分の中ではお店に出店の交渉をした経験が一番記憶に残っています。実際にお店に行つて、お店の方と対面で説明することの難しさを改めて痛感しました。相手にとって何が知りたい情報なのか、何を伝えるべきなのか、出店していただくために何をアピールすればいいのかなど考えることが多く、うまく説明できず悔しさが残った経験でした。その経験から伝えたい項目をしっかりと明確にしてから話すことを意識するようになりました。

また当日の準備として子ども用のアクティビティを考えました。子どもは好奇心がありつつも嫌なことがあったりするとすぐ飽きてしまうので、最後まで飽きずに楽しめるアクティビティを作れるよう頑張っていました。子どもだけじゃなく大人の方もクイズ&スタンプラリーをしていただいたり、最後の片付けの時間ギリギリまで投壺（壺に矢を投げ入れる中国の遊び）で

遊んでくれていた子どもたちがいたりとてもうれしかったです。

当日はネパール物産の担当でしたが、価格の壁があり、買っていただけの方がほとんどいなかったのは悔しかったです。もっと買いたくなるような値段設定やアピールの仕方を考えるべきだったかなと思いました。

4カ月間イベント企画に携わったことで、初めての経験ができました。今後、自分のインター先を紹介してくれたNPO法人ドットコの学生スタッフをしていく上で活かせるスキルをたくさん学んだので、これからスタッフとして頑張っていきたいと思っています。

この機会を設けてくださったアジア協会アジア友の会様と、ともに頑張ったインターン生的小伙伴们に感謝します。



インターン生が担当したクイズラリーのゴールとネパール物産 = 2025年11月22日、大阪国際交流センター

人とつながる経験が宝物に

龍谷大学2年生 栗栖佳子

日の会場の笑顔で一気に吹き飛びました。

今回のインターンを通して、人とのつながりの大切さや、仲間と力を合わせることで大きなことが実現できると実感しました。今後も機会があればJAFSのイベントに参加したいと考えています。今まで短い間ではありましたが、ありがとうございました。

アジアまるごとフェスタに関わった2カ月間は、私にとって大変貴重で楽しい時間でした。最初は就職の役に立ってほしいという気持ちもありましたが、多くの方との出会いや交流を通して、この2カ月は宝物のような経験になりました。

ヘナタトゥーの運営では、イベントをきっかけに初めてJAFSを知ってくださった方も多く、準備の不安も当



アジア各国の雑貨店や飲食ブースでにぎわう = 2025年11月22日、大阪国際交流センター

JAFSチャリティイベントカレンダー

2026年冬



月	日	地域	行事名	時間	実施場所	参加費	内 容
1月	12月16日(火)～1月25日(日)	ホームページ参照	第5回「水」写真コンテストの作品募集	※切1月25日(日)23時59分	応募方法は、当会のHPをご覧ください	無料	3月22日「世界水の日」に合わせ、水写真コンテストを開催いたします。今回のテーマは「水と生きる子どもの未来」です。「水」は私たちが生きていく上で大切な資源です。多様な写真の応募をお待ちしています。
	10日(土)	西区	第7期JAFSアジア市民大学 第1回ベトナム・シンガポール	14:00～16:30	肥後橋官報ビル8階会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	一般 2400円 会員 2000円 学生無料	日越大学（ハノイ国家大学）客員教授で第7期アジア市民大学学長の桂良太郎氏がベトナムとシンガポールの福祉の現状からアセアンと日本の未来について語ります。●窓口：事務局 柿島 090-1021-6834
	9日(金)～20日(火)	堺市	ギャラリー&オフィス いろはに チャリティ・バザー	11:00～17:00 1/14-15休み	ギャラリーいろはに 堺市堺区甲斐町東1-2-29（山之口商店街中ほど、阪堺線宿院駅より徒歩2分、南海本線堺駅より徒歩12分） 電話:072-232-1682	無料	毎年恒例のお正月チャリティイベントが今年も開催されます。（今年で通算27回目です）カレンダー・手帳などが販売され全額JAFSの支援活動に寄付される楽しいバザーです。●窓口：佐藤満昭 090-2066-1929（土日お店にいます）
	13日(火)	西区	第429回JAFSそうすいの会	12:00～13:00	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員 15名	10月にバンコクで開催された第31回アジア国際ネットワークセミナーについて参加したスタッフが報告します。そうすいを食べながらアジアへの井戸支援を行います。●窓口：事務局 柿島 06-6444-0587
	13日(火)	備前市	第52回アイビー歌声サロン in 日生	15:00～16:30	岡山県備前市日生町日生2219-4（日生郵便局の隣の隣）	500円	リクエスト形式でピアノ・キーボードの生伴奏でみんなで楽しく歌いましょう ●窓口：鳥居 090-5663-6123
	15日(木)	藤井寺	第37回JAFS道楽の会 ウォーキング～藤井寺周辺を歩く・菅田八幡宮で初詣	13:00～16:00	13:00大阪阿部野橋駅西改札口集合→藤井寺→善光寺→城山古墳→応神天皇陵拝所→菅田八幡宮→道明寺	1000円	ウォーキングに参加することでアジア支援のチャリティ募金を行います。 ●お申込・お問い合わせ：石原 090-1134-3085
	17日(土)	西区	JAFS国際ネットワーク支援会	11:00～13:30	肥後橋官報ビル8階会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	1500円 (昼食含む)	村上公彦創設者の新春講話をお聞きし、昼食を交えておしゃべりします。誰でもご参加いただける会です。 ●申込窓口：大仁 06-6444-0587
	28日(水)	生駒市	アイビー歌声サロン in 生駒	15:00～16:30	生駒市たけまるホール 多目的室 近鉄奈良線、大阪メトロ中央線生駒駅よりすぐ。	700円	腹式呼吸を目指し、出席者からのリクエスト曲をキーボード生演奏で、皆さんと一緒に歌います。 ●窓口：有山加代子 090-8377-5151
	29日(木)	京都市	アジアを知ろう学習会&新年会	18:00～20:00	日本基督教団洛西教会 〒603-8332 京都市北区大將軍川端町95 市バス「大將軍」下車徒歩1分	1500円 (夕食付・飲み物別)	JAFSがどのように誕生したのか、目指す活動について創設者の村上公彦氏よりお話を伺います。その後、温かい鍋を囲んで、夕食交流会をおこないます。学生ご招待 ●（要申込）事務局岡本まで
2月	1月下旬土or日	富田林市	金剛山雪山登山	8:00～15:00	金剛山の山頂への登山です。 集合：南海高野線・河内長野駅バス乗り場	1000円 定員 15名	恒例の金剛山・登山です。山頂付近では雪の中を歩きます。頂上での暖かい昼食も楽しみです。メンバーの体力に合ったルート選定でベテランが案内します。詳しい案内は、JAFSホームページにアップします。
	7日(土)	天王寺区	JAFS国際ネットワーク支援会	14:00～16:00	大阪市天王寺区空堀町6-12JAFS事務所 大阪メトロ鶴見緑地線orJR 環状線玉造駅よりすぐ	1000円	これまで培ってきたアジア18ヶ国との絆を次世代へつなげ、応援する為の知恵を持ち寄るおしゃべり会です。 ●申込窓口：大仁 06-6444-0587
	7日(土)～8日(日)	北区	関西最大の国際協力の祭典 第33回ワンワールドフェスティバル	10:00～17:00 2日目は16:30	梅田スカイビル JR大阪駅中央北口より徒歩7分 阪急大阪梅田駅茶屋町口より徒歩9分 御堂筋線梅田駅5番出口より徒歩9分	無料	JAFSは3階ステラホールのNGO・NPO国際協力関連ブースに出展します。様々なステージ・プログラムやセミナー・ワークショップの他、世界各国の民族料理が楽しめるみんなのキッチンなど盛りだくさんの内容を満喫できます。詳しくはワン・ワールド・フェスティバルHPをご覧ください。
	10日(火)	天王寺区	第430回JAFSそうすいの会	12:00～13:00	大阪市天王寺区空堀町6-12JAFS事務所 大阪メトロ鶴見緑地線orJR 環状線玉造駅より徒歩6分	500円 定員 15名	最近のアジアの現況を、スタッフまたはアジアからの留学生が報告します。そうすいを食べながらアジアへの井戸支援を行います。●窓口：事務局 柿島 06-6444-0587
	14日(土)	西区	第7期JAFSアジア市民大学 第2回 ミャンマー	14:00～16:30	肥後橋官報ビル8階会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	一般 2400円 会員 2000円 学生無料	京都精華大学国際文化学部の特別任用准教授のナンマイケーカイン氏が軍政ミャンマーの現況、タイへ避難した若者や日本にきた留学生の状況について報告します。●窓口：事務局 柿島 090-1021-6834
	19日(木)	飛鳥路	第38回JAFS道楽の会 ウォーキング～飛鳥路を歩く（変更の可能性あり）	13:00～16:30	13:00大阪阿部野橋駅西改札口集合→高松塚古墳→橋寺寺→石舞台古墳→欽明天皇陵	1000円	ウォーキングに参加することでアジア支援のチャリティ募金を行います。 ●お申込・お問い合わせ：石原 090-1134-3085
	21日(土)	西宮	第30回西宮国際交流デー ●当日ボランティア募集	10:00～15:00	フレンテ西宮 4階 JR「西宮」駅 駅南出口すぐ	—	インターナショナルカフェ、日本語スピーチ、日本文化体験コーナー、各国の物品販売、バザーなど。 JAFSは会議室にてアジア雑貨の物販で出店します。

	2月 25日 (水) ～3月 2日 (月)	北区	第22回H2OサンタNPOフェスティバル及び 第5回水写真コンテスト ●当日ボランティアも募集	10:00～ 20:00 (最終日は 17時まで)	阪急うめだ本店9階祝祭広場	無料	第22回H2OサンタNPOフェスティバルにて、JAFSのブースを出展します。合わせて、第5回水写真コンテスト1次審査通過写真を展示し、一般の方々に投票いただく第2次審査を同時に開催いたします。会場での写真コンテスト及び展示案内ボランティアを募集します。 *展示案内ボランティアは11:00～17:00 ●窓口：事務局 榮、藤澤 06-6444-0587
3月	7日 (土)	西区	JAFS国際ネットワーク支援会	14:00～ 16:00	大阪市天王寺区空堀町6-12 JAFS事務所 大阪メトロ鶴見緑地線orJR 環状線玉造駅より徒歩6分	1000円	これまで培ってきたアジア18ヶ国との絆を次世代へつなげ、応援する為の知恵を持ち寄りおしゃべり会です。 ●申込窓口：大仁 06-6444-0587
	上旬 の土 or日	富田林	寺内町・ひな巡り	11:00 ～ 14:00	富田林・寺内町界隈 集合：南大阪線近鉄 富田林駅前	1000円 定員 15名	春の訪れを告げる行事：「ひな巡り」を開催します。 寺内町の旧家に飾られる「雛人形」や「飲食・模擬店」が楽しめます。 (注) 富田林市広報からの具体的日程が発表されればHPに掲載します。
	11日 (火)	天王寺区	第431回JAFSそうすいの会	12:00～ 13:00	大阪市天王寺区空堀町6-12 JAFS事務所 大阪メトロ鶴見緑地線orJR 環状線玉造駅より徒歩6分	500円 定員 15名	最近のアジアの現況を、スタッフまたはアジアからの留学生が報告します。そうすいを食べながらアジアへの井戸支援を行います。●窓口：事務局 柿島 06-6444-0587
	14日 (土)	西区	第7期JAFSアジア市民大学 第3回 モンゴル	14:00～ 16:30	肥後橋官報ビル8階会議室 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	一般 2400円 会員 2000円 学生無料	立命館大学サステナビリティ学センター客員研究員の堀田あゆみ氏が、「モンゴル遊牧社会における物質文化の変容とその影響」について具体的な事例を交えてお話しされます。 ●窓口：事務局 柿島 090-1021-6834
	19日 (木)	琵琶湖疎水	第39回JAFS道楽の会 ウォーキング～琵琶湖疎水を歩く(変更の可能性あり)	13:00～ 16:30	13:00京都山科駅集合→諸刃神社→毘沙門堂→本園寺→第三トンネル東口→インクライン→南禅寺水路閣→疎水記念館→地下鉄蹴上駅	1000円	ウォーキングに参加することでアジア支援のチャリティ募金を行います。 ●お申込・お問い合わせ：石原 090-1134-3085
4月	11日 (土)	西区	第7期JAFSアジア市民大学 第4回 韓国	14:00～ 16:30	肥後橋官報ビル8階会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	一般 2400円 会員 2000円 学生無料	立命館大学コリア研究センター客員研究員の生駒智一氏が、「日韓関係60年の歩みとこれからの展望」について60年間の振り返りからお話しされます。 ●窓口：事務局 柿島 090-1021-6834
	14日 (火)	天王寺区	第432回JAFSそうすいの会	12:00～ 13:00	大阪市天王寺区空堀町6-12 JAFS事務所 大阪メトロ鶴見緑地線orJR 環状線玉造駅より徒歩6分	500円 定員 15名	最近のアジアの現況を、スタッフまたはアジアからの留学生が報告します。そうすいを食べながらアジアへの井戸支援を行います。●窓口：事務局 柿島 06-6444-0587
	18日 (土)	オンライン	「みどりの遺言」無料法律相談 主催：一般社団法人JELF	10:00～ 17:00	相談希望の方は下記の電話またはメールにて事前予約ください。 電話：03-6264-7330(アライツ法律事務所内) メール：midori@green-justice.com	無料	一般社団法人JELF(日本環境法律関連連盟)は当会の池田理事をはじめとする全国の430名の弁護士で構成される環境保護を目的とした団体で当会を含む環境保護団体に寄付や遺贈をお考えの皆様は「みどりの遺言」プロジェクトを進めています。今回、オンラインによる個別相談会(お一人1時間)を開催しますので、ご希望のかたは電話かメールでご予約ください。

♥「もったいない」のきもちを社会貢献へ♥

JAFSでは以下のものを集めています。ぜひ、ご協力をよろしくお願いいたします。

- 書き損じハガキ、切手(未使用・記念切手可)、外貨コイン：事務局の通信や、JAFSの活動に使わせていただきます。
- 服、アクセサリ、カバン等：買ったけど数回しか使っていない。でも捨てられないものありませんか。

お問い合わせ 06-6444-0587 JAFS事務局

断捨離 × 国際協力

もったいないを力に！

寄付いただいた物品は、チャリティーショップ KANAU で販売。
その売上がアジア協会の支援活動に役立てられます。



洋服(春・夏服)

※冬服は9月以降にお願いします



靴



本/CD/DVD



服飾品

アクセサリ
ショール等

問合せ・受付先 ▼ 火曜定休 10:00～18:00 JR 寺田町駅より徒歩10分

KANAU

夢かなうチャリティーショップ



〒544-0025

大阪市生野区生野東 2-2-15

☎ 090-4161-0236 (青木)

詳細 ▶



新入会員ご紹介

ご入会感謝申し上げます。(敬称略・50音順)

2025年9月1日～11月30日

●マンスリースポーター「維持会員」

松本綾

●里親サポーター「アジア里親の会」
加藤智子

会費納入者、寄付・物品協力者

温かいご支援ありがとうございます。(敬称略・50音順)

2025年9月1日～11月30日

なお夏季・冬季募金へご協力くださった方につきましては、
1年後の夏季・冬季に別紙で報告させていただきます。

●社員会費

池田直樹／井上勇一／岡本圭司／小原純子／小原孝彦／河口正隆／木村将明／加納道代／吉田幸子／吉田俊朗

●維持会費

浅尾佐江子／安宅義人／石若達弥／市川秀一／稲富洋子／井上邦子／岩坪小夜子／上田慎子／植田延江／宇田喜美子／宇野和子／岡本就介／小野孝博／壁谷桂子／河合忠和／小橋伸子／小森薫／澤村和子／品木吉明／白國哲司／(有)たかせや取締役高瀬みよ子／瀧野秀二・三重子／田中英夫／辻井昌子／坪倉幸弘／戸田恭子／永江敦子／中尾和子／中川寛子／中橋康治・真由美／永原幹男／中山康夫／野井洋正／橋詰英子／福岡仁／藤井いずみ／藤田高淳／古谷佳世子／前田恵／前田安太郎／三島明美／水之上成彰／武藤三代子／安田勝／山地尚枝／吉田敬市／吉田樹央

●賛助会費

秋元千佳／足立暁／生駒晴代／石田功夫／石山光子／市川晃／伊藤恵理／稲

和子／角谷道子／鎌田勝江／鎌田重明

／川岸幸恵／北原恵美／北原祐司／小高静／今野裕章／佐藤理香／下村蓮実

／武内彩／田辺咲葵／谷山美和子／坪倉幸弘／中川亮／中谷良子／中橋康治

・真由美／中山忠愛／西澤純／西山美菜子・千晶・敦記／長谷川美穂子／ピ

グマリオン学院奈良教室代表中沢麻子／藤原克彦／増田愛子／水野礼子／南

大阪教会／武藤三代子／森佳緒里／矢口睦美／吉田幸子／和田幸子／渡部司

●マンスリースポーター

天城理伊／大河原貴／Koshita Jun／佐藤文昭／杉崎仁志／武市知己／館野晶光／辻本健二／橋本亜紀／伴香保理

／松久敏彦／松本綾／宮田英一／森美鶴

●一般寄付

池田直樹／井上勇一／大久保勝則・洋子／小原純子／小代利子／櫻井紘哉／服部隆志／柴田治男／ソフトバンクつ

ながる募金／田中航／中須賀敬子／藤原正昭／眞砂哲志／松原節子／宮田安希子／柳井一朗／吉田幸子／吉田俊朗

／鈴木晶

●土と水と緑の学校支援寄付

奥村文字

●アジアまるごとフェスタ支援金

宇田和博／学校法人エール学園総経長谷川恵一／株式会社カステロ代表取締役毛利吉男／株式会社グローアップ代表取締役米田照生／坂口久代／新谷百代／JAFS高槻／日本殺陣道協会

●能登半島地震被災地支援

秋元千佳／龜山常男／浅井聡子／荒川鉄也／有田稔／安藤幹雄／幾谷昌彦／池谷和博／池田一義／池田ミオ子／石泉ふれあい味噌工房／石田和子／石附康子／伊藤エリサ／伊藤亮三／乾聖陽

／井場弥生／岩坪小夜子／岩本郁子／上田芳枝／晴地道俊／梅本隆司・富美子／円頓寺／大岩典代／大阪府立高石

高等学校／大山利子／大山行雄／岡田経子／冲早知子／小椋加代子／小野恵大／角谷道子／粕谷香代子／勝成忠

／金川眞己／鎌田重明／上村みちえ／川崎洋二／上林愛子／菊池哲也／岸本和彦

彦盛和三／高松雅／木村早苗／木村征代／木村依江／久保桂子／久保佑治

／久保田篤・敬子／糺矢美智／小林与子／浄土宗西方寺／佐々木健児・ゆみ子／佐藤道代／澤田武憲／沢田博／篠

田京子／篠塚達朗／柴谷享一郎／島津博義／庄子幸子／正法地由紀子／前原英彦／曹洞宗円通寺住職菅原芳徳／杉

本明子／鈴木真／瀬尻芳子／高谷佑助／高橋浩二／高橋文子／田口裕子／武

本和子／辰登志男／田中和子／田中静枝／谷保子／谷阪洋子／千田裕子／地

本英子／杖村眞佐子／天徳寺／戸田恭子／鳥居洋一／内藤隆／中嶋啓子／中

島綾／中谷誠／中野為夫・桂子／西川龍夫／ネパールへのかけ橋／畠山ひろ

み／羽田孝彦／濱田美恵子／早崎鉄也／林越洋子／原田和幸／東野栄子／福

井利法／福西宗子／福原智恵子／藤原正昭／二葉幼稚園／藤並慈恵／古谷佳

世子／法花敏郎／堀口節子／本庄紀子／松浦有理子／松尾慶治／三林寿子／

宮古聖ヤコフ教会／村田恭仁子／元橋亮治／森崎律子／森下隆子／八木祐子

／八東浩一／柳田芳孝／山野和子／上田年春／霊松寺岡村良孝／脇家崇夫／和田幸子

●井戸指定
飯塚和彦／角英樹

●井戸建設積立
(一財)エオサンタ／JAFSぞうすいの会

●井戸建設指定

○カンボジア

飯塚和彦／イオングループ労働組合連合会

○ネパール
エーゼル(株)／吉川りょう

●水支援
川本順子／立松ルミ子／佐藤三津次／飛岡碧波

●アジア・ネットワーク奨学会費
上野孝一／西川京子

●アジア・フレンドシップ夢基金
JAFS歩く会／坂口久代

●コスモニケタン指定寄付
明見勝好／明見睦子／岡光子／田中壽美子／山下由起

●インド指定寄付
脇家崇夫／和田幸子

●インドパタトラ小学校支援
川崎隆二

●インドネシア指定寄付(バリ島環境教育センター整備支援)

秋元千佳／龜山常男／浅井聡子／浅野直人／荒川鉄也／幾谷昌彦／池谷和博

／池田一義／石泉ふれあい味噌工房／石田和子／石附康子／伊藤エリサ／伊

藤亮三／乾聖陽／岩田悦子／岩本郁子／梅本隆司・富美子／円頓寺／大岩典

代／大木洋子／大山利子／大山行雄／岡田経子／冲早知子／小椋加代子／小

野恵大／粕谷香代子／勝成忠／金川眞己(株)ミズミズ／鎌田重明／上村みち

え／上林愛子／岸本和彦／嶽盛和三／高松雅／木村征代／木村依江／久保桂

子／久保田篤・敬子／暮部恵子／小林与子／浄土宗西方寺／佐々木健児・ゆ

み子／佐藤道代／澤田武憲／篠塚達朗／柴谷享一郎／島津博義／庄子幸子

／

正法地由紀子／前原英彦／曹洞宗円通寺住職菅原芳徳／杉本明子／鈴木貢／瀬川真平／高木光子／高橋浩二／田口裕子／武本和子／辰登志男／谷阪洋子／千田裕子／地本英子／天徳寺／戸田恭子／鳥居洋一／内藤隆／中谷誠／島山ひろみ／羽田孝彦／浜口啓子／濱田美恵子／濱田光江／早崎鉄也／原田和幸／日笠修宏／福井利法／福原智恵子／藤原正昭／藤並慈慧／船戸康夫／古谷佳世子／法花敏郎／堀口節子／本庄紀子／松浦有理子／松尾慶治／松山光紀／宮古聖ヤコブ教会／森下隆子／八木祐子／山野和子／上田年春／霊松寺岡村良孝／脇家崇夫／和田幸子

●スリランカ・サルボダヤ支援会費
天野澄子／安藤幹雄

●スリランカ指定寄付
岡本朋子

●ネパール指定寄付
株かんぼう

●ネパール災害罹災者支援募金
渡辺治彦

●ネパール・ピトゥリ基金・支援
熱田典子／大谷英一／大谷臣子／小川幸子／北野与志江／倉光和之／小松朱美／前田美津代／前田豊／マツララジヤンマン

●ネパール栄養改善教育支援
熱田典子／ネパールへのかけ橋／ネパールヨードを支える会

●フレンドシップ国際基金
越智翼／小原純子／大仁孝太郎

●フィリピン台風被災者支援寄付
高谷侑助

新事務局長 就任あいさつ



この度、創立46年という長きにわたり、社会貢献を続けてきたJAFSの事務局長に就任いたしました端無勝と申します。大変光栄であると共に、その重責を深く心に刻んでおります。

先輩方が築かれた信頼と功績を基盤に、時代の変化に対応し、皆様と共に新たな価値創造を目指してまいります。ご支援、ご協力をお願い申し上げます。

●バングラデシユ・ネパール大規模洪水復興支援
濱田美恵子

●トルコ地震支援
日笠修宏

●助成金／補助金
○コーヒー育苗栽培
(公社) 国土緑化推進機構

●集めるキャンペーン・物品寄贈
幾谷真規子／高橋美也子

JAFS大阪事務所移転と東京事務所開設のお知らせ

JAFS大阪事務所は、このたび長く親しんで参りました大阪市西区を離れ、天王寺区の玉造に移転することになりました。創立以来、西区で社会貢献活動の礎を築き、アジア地域への支援を志高く行参りました。これもひとえに、温かいご厚情とご支援をくださった会員の皆様あつてのことと、心より感謝申し上げます。

新天地となる玉造でも、地域の一員として次世代を育てる活動、社会のより良い継続のための支援を続けて参ります。引越し作業では会員の皆様にご迷惑をおかけしますが、何卒ご容赦ください。

【新大阪事務所】〒543-0012 大阪市天王寺区空堀町6-12

また、活動地域を拡げるため、東京にも事務所を設け、さらなる公益的活動を推し進めます。

【東京事務所】〒108-0073 港区三田4-1-7 広栄ビル3階

今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。

アジアネットのお届け方法についてお願い～メール送付を始めています

郵送費高騰の折、会報アジアネットのお届けを、少しずつデータ化していきます。まずは紙媒体と同じ内容の会報データを、切り替え可能な方には今号164号からメールでお送りし始めています。

メールアドレスをお持ちで、パソコン・スマホ・タブレットなどでアジアネットを読まれる方は、下記情報を記載いただき、JAFS事務局（asia@jafs.or.jp）までメールをお送りください。

- ・タイトル「アジアネットのメール送付希望」
 - ・お名前
 - ・登録番号（アジアネット送付宛名ラベルの名前の前の番号、登録番号不明の方は代わりに住所）
- メール送付への移行にご協力ください。連絡をいただかない方には、従来通り郵送いたします。

ご寄付には
税の優遇措置が
受けられます

いのち 生命の水 うるおす未来

井戸の寄贈にご協力ください。あなたの力がアジアの人々の命を助けます。ご寄贈者に完成報告書、写真をお届けし、現地の井戸に、ご寄贈者のネームプレートを設置します。

■井戸1基ご寄贈の場合に必要な費用■（2024年4月改定）

インド=60～80万円 スリランカ=40万円 バングラデシュ=25万円
ネパール=20万円（パイプライン=25～400万円） フィリピン=45万円
カンボジア=28万円

※現地の建設・資材費上昇により改定。3年間のメンテナンス費、現地管理費を含む。

■寄付を合わせて1基寄贈の場合■ 1,000円以上の任意額のご寄付で井戸建設にご協力いただけます。20万円以上のご寄付でネームプレートに記名いたします。

■お振込み先■ ・郵便振替 00960-6-10835 アジア協会アジア友の会

・三菱UFJ銀行大阪中央支店 普通1968711 公益社団法人アジア協会アジア友の会

安全で衛生的な水を確保できないアジアの地域に井戸ができて生活基盤が整い、自立へ一歩踏み出せるようになりました。ご寄贈くださったみなさまに感謝申し上げます。

みなさんのおかげで 井戸ができた村

詳しくはアジア協会アジア友の会
06-6444-0587

学校に安全な水の深井戸できた

村には安全な水を得られる井戸がなかったため、少しでも良い水を得るために雨水をためて利用し、近隣の村にある深井戸まで水をわけてもらいに出かけることもありましたが、安全な飲料水を手に入れるのは難しいことでした。この度のご支援により、多くの子どもたちが通い、村人が行きやすい場所にあるザミラBDP小学校の中に、深井戸が建設されました。これで、毎日どのようにして水を得るか心配し、遠方の村まで長い時間を費やして水くみに行く必要がなくなりました。



ジャマルプル県バスチャール地区ザミラBDP小学校内 受益者…67世帯332人
井戸の形式…ポンプ式（深さ279m）

【寄贈者】山川 清・雅代様

バングラデシュ

【寄贈者】山川 清・雅代様



川の水を飲まなくて済む

ジャマルプル県スリプル地区ハヤトプールBDP小学校内 受益者…50世帯248人
井戸の形式…ポンプ式（深さ279m）

県内を流れるブラマプトラ川は6～10月の雨季には氾濫し、洪水をひき起こします。11～3月の乾季には水位が極端に下がり、水は濁って淀んだ状態になります。井戸ができるまでは、村人には、この川や大雨が降るとできる池の水が唯一の水源で、飲料を含むすべての生活用水でした。しかし、安全とは言えない水を長年飲み続けることで、様々な水感染症にかかり苦しんでいました。井戸ができ、いつでも安全な水を手に入れられるようになり、心から感謝しています。

3km先からパイプライン

この村は郡の中でも乾燥地域で、水脈がとても少ない山地です。さらにこのモランダダ集落には近くに水源がなく、30分から1時間歩いて水を得る毎日でした。そこで、3kmほど離れている水源の水をこの集落で使えるように周辺住民と協議し、水源を確保しました。そして、その水を集水するタンクを作り、浄水フィルターを通した後で集落に水を流すパイプラインを敷設。各戸で水が使用できる水道蛇口を設置して、日々の飲料水や生活に使う水が確保できました。

シンドウバルチョーク郡インドラワティ村10区
受益者…直接受益者7人・間接受益者105人
井戸の形式…簡易水道付パイプライン式



【寄贈者】高木将様

【寄贈者】桐山定雄(いのしし亭)様

シンドウバルチョーク郡インドラワティ村10区
受益者…直接受益者7人・間接受益者105人
井戸の形式…簡易水道付パイプライン式



水くみから解放された姉妹

ビマラちゃんとナミサちゃんは、水道ができる前、お母さんに水くみを頼まれるのが嫌でした。水が入った水瓶は重いですし、自分たちが水をくみに行くと、年上の人たちにくむ順番を譲るので、なかなか水くみから家に帰れませんでした。空腹を我慢しながら姉妹で交代して水瓶を運ぶことは、必要と分かりながらも辛く感じていたのです。今回この水道パイプラインを作っていただいて、安心して日々の飲料水や生活に使う水が確保でき、姉妹も水くみの苦勞から解放されました。

友達と遊び宿題できる

この集落近くには水源がなく、村人は30分から1時間歩いて水を得ていました。この家のソローズくんも、学校から帰宅すると、まずは水瓶を抱えて水くみに行くことが日課でした。友達が住む他の集落には2年ほど前に水環境が整い、水くみに行く必要がなく、帰宅後は友達と遊んだり宿題をすることができると聞いていて、大変うらやましく思っていました。今回この水道パイプラインが設置されたことにより、ソローズくん一家も水くみの必要がなくなり、とても喜んでいます。

シンドウバルチョーク郡インドラワティ村10区
受益者…直接受益者7人・間接受益者105人
井戸の形式…簡易水道付パイプライン式



【寄贈者】鎌田勝江様

体が洗えて清潔に

村の若者の多くは村外や海外で仕事をしており、残された家族の多くは高齢者なので水くみに日々大変苦勞をしていました。家もほとんどの場合斜面に建っており、足の悪いバハドゥールさんは、水源地に自分で移動することができず、体を洗えるのは月に数回で、清潔な環境で生活したいと願っていました。安全な飲料水の確保が最優先ですが、日々の生活の衛生環境を整えるのも大変重要なことです。パイプラインによって各戸に水道蛇口が設置され、願いがかないました。



【寄贈者】合同会社天to天 沓野泰之 様

シンドウパルチョーク郡インドラワティ村8区
受益者…直接受益者21人・間接受益者640人
井戸の形式…簡易水道付パイプライン式

水くみしないで仕事ができる 【寄贈者】(株)リレーションズ 松村篤樹 様

ラクシュミさんは、長年遠くから水をくんでくる生活をしていましたが、隣村の親戚を訪ねた際に家の敷地内に水くみ場があり、そこから水をくんでいる様子を見ました。それから、自分の家にもこんな水場ができれば、もう少し暮らしを良くするための仕事ができるのにと、水環境の改善を希望していました。今回その水道パイプラインが設置され、集落の人々は安心して日々の飲料水や生活に使う水が確保でき、水くみの苦勞から解放されました。



シンドウパルチョーク郡インドラワティ村8区
受益者…直接受益者22人・間接受益者640人
井戸の形式…簡易水道付パイプライン式

【寄贈者】札幌リバティライオンズクラブ 様 不衛生なため池から井戸へ

タケオ州トレアン郡トラペアンベン村
受益者…8世帯37人および近隣住民
井戸の形式…露天式（深さ22m）



村には井戸がなく、お寺のため池が唯一の水源でした。くんだ水を運ぶには自転車や一輪車を使うか、持っていない家では手で運ぶか、お金を払って運んでもらっていました。ため池は地域全体で唯一の水源だったので、動物も水浴びするため衛生的とは言えず、洗濯排水なども流れ込み、飲料には適さない水でした。井戸について村で話し合い、皆に便利な場所の家が土地を提供してくれました。掘ったところとても良い水脈で、水質検査にも合格。村人皆で大いに喜び感謝しています。

昨年11月下旬から12月にかけて、南アジアと東南アジア全域で続いたサイクロンによる豪雨に伴う洪水や土砂崩れなどにより、地域全体で死者は1900人を超える（12月15日時点）という甚大な被害をもたらしました。

近年、気候変動によって極端な気象現象がより激しく、頻繁に起きるようになっていると、科学者からも指摘されています。世界気象機関によると、アジアでは世界平均のほぼ2倍の速さで温暖化が進んでいるそうですが、それに伴い海面水温の上昇と大気中水蒸気量の増加も顕著なため、積乱雲はより激しく発達し、短時間で極端な雨を降らせます。今回のインドネシアの豪雨も、マラッカ海峡でのサイクロン発生という稀に見る異常気象がもたらしました。

インドネシアではスマトラ島のアチェ州、北スマトラ州、西スマトラ州を中心に大きな被害がありました。被害を拡大した原因は森林破壊と、様々な方面から指摘されています。

人為的な環境影響により気象現象が強まる一方、それを受ける陸側では人為的な自然破壊により耐性が弱くなっていることから、二重の意味で人間が被害を大きくしていると言えます。

インドネシアは、ブラジルに次ぎ世界で2番目に森林破壊が多い国と言われています。木材密輸

のための違法伐採、油ヤシ農園開発のための森林伐採、紙パルプや木質ペレット用の産業用単一造林のための森林伐採、また鉱山開発が主な原因です。

今回の被災地を含むスマトラ島北部では、過去25年間に森林の30%弱が失われました。もともとスマトラ島の森林の多くは、泥炭湿地林という、落葉が水に浸かった泥炭が蓄積する森林です。伐採し、さらに農園や造林開発のために強制的に排水するので、広範に土地が乾燥して保水力が低下したため、降雨が地表にあふれ浸水の程度が増し洪水になったと考えられます。また斜面の森林破壊により裸地が増えていたことが、土砂崩れの一因と考えられます。

インドネシアのラジャ林業相が、今回の洪水をきっかけに森林管理の手法を見直すべきだと発言したことには救いがあります。このまま森林破壊が進めば、浸かっていた水から脱した泥炭は空气中で分解が進み、二酸化炭素を排出してしまうので温暖化を進行させ、洪水被害をさらに大きくするという悪循環に陥ってしまいますから。また私たちも、使っている木材、植物油脂（パーム油）、紙などの原料がどこから来たのか、関心を持ってみることも必要かなと思います。

（JAFSスタッフ 川本 裕子）

環境コラム

アジアの洪水に人が影響

- A. 社員会員 年額 24,000円
- B. マンスリーサポーター〔維持会員〕
月額 1口 1,000円～
- C. 里親サポーター〔アジア里親の会〕
年額 1口 30,000円
(月額 1口 2,500円)
- D. 法人会費 年額 1口 50,000円

会員となつて継続的に支援くださることで、安定した活動計画ができます。ご協力をお願いいたします。

会費・寄付の振り込み先

三菱UFJ銀行中之島支店 普通1007011 または 楽天銀行リズム支店(209) 普通7006892 【口座名 シャ）アジア協会アジア友の会】

入会・寄付ご案内

遺贈寄付で遺志をアジアへ

ご自身の大切な財産の一部を、JAFSへの遺贈（非課税）として生前に遺言に記していただくことにより、ご遺志をアジアの未来にお役立ていただけます。

遺された方が相続された遺産も、アジアの今後につながる寄付（非課税）として活かしていただくことができます。

編集後記

息子（0歳）の夜泣きが止まらない。夜泣きの解決策をA-1に聞いた。「室温を18℃～22℃にする」「湿度を40～60%にする」などいま一つの助言。「いつか終わりがくる」と会員さんからの助言が一番心に響いた。（藤）

ア ジア各地で甚大な災害が続いています。復興までの道のりは長く決して容易ではないけれど、これからのホリディシーズン、被災者の方々が少しでもあたたかな気持ちで過ごせるよう、心から祈っています。（佳）

京 都の出町柳。鴨川の東にイ

スラエル料理店がある。鴨川の西にパレスチナ料理店ができ行くと、以前食べたイスラエル料理とほぼ同じ。同じ食文化ながら争う国を鴨川は隔てない。ヨルダン川にも穏やかな日を。（川）

晩 秋に河内長野の「花の文化園」へ。クレマチスの白い

花と出会いました。花言葉は「精神の美」。細いつるをぐんと伸ばして美しい花をつけるのが由来とか。この花にあやかり強い心を持ち続けたいと願っています（敏）

聖 書に、7年の7倍に1年を

足した50年という考えがあります。JAFSは間もなく創立50年。「止揚」とは今までの考えを捨てて再構築し、今までの良さを再び取り込むという意味。JAFSの今かもしれません。（柳）



募金にご協力をお願いします

アジアの安全な飲料水がない地域で
貧困に苦しむ人々を支援する活動に使われます

郵便振替 00960-6-10835 アジア協会アジア友の会

編集・発行：公益社団法人 アジア協会アジア友の会
(JAFS)

〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-2-14 肥後橋官報ビル5階

☎ 06-6444-0587 FAX 06-6444-0581 E-mail asia@jafs.or.jp

URL: <https://jafs.or.jp> Facebook: <https://www.facebook.com/JAFS.NGO/>

HPもご覧ください

2026年1月 164号 発行人：篠原勝弘

広報企画委員長：法花敏郎 副委員長：柳井一郎

編集アドバイザー：黒沢雅善

編集スタッフ：岡本佳子、大本和子、柿島 裕、

川本裕子、藤澤幸二郎

印刷製本：あさひ高速印刷株式会社



ご寄付をお願いします

▲ミャンマーからネパールに逃れた口
ヒンギャ難民の両親から生まれた子た
ち。貧しいながら家があり学校に通え
ている笑顔にひと安心。9月20日、ネ
パール・カトマンズ郡チュニケル村

▲表紙の写真 スタディツアーに出
会った、インド独立記念日を祝う女の
子。国旗カラーのリボンでおめかし。8
月15日、インド・マハラシュトラ州
ナグプール。458ページに特集記事